

## 吹雪時の交通行動判断を支援する「吹雪の視界情報」の技術開発が全建賞受賞

雪氷チーム

寒地道路研究グループ雪氷チームが取り組んでいる研究「吹雪時の交通行動判断を支援する「吹雪の視界情報」の技術開発」が平成29年度全建賞（主催：一般社団法人全日本建設技術協会）を受賞しました。全建賞は、昭和28年に我が国の良質な社会資本整備の推進と建設技術の発展を促進するために創設された伝統ある賞です。

積雪寒冷地の冬期道路は、吹雪による視程障害による交通障害がしばしば発生するなど、厳しい走行環境にあります。これまで、防雪柵などのハード的な対策によって吹雪災害の軽減に効果を上げていますが、多くの時間と費用が必要である他、極端な暴風雪への対応には限界があります。吹雪災害の防止・軽減を図るためには吹雪の現況及び予測情報を提供するソフト的な対策を行い、道路利用者等の交通行動判断を支援することが重要です。

今回受賞した研究では、容易に入手可能な気象データ（降雪強度、風速、気温など）から吹雪時の視程を推定する手法を世界で初めて開発しました。その開発した技術を利用して、暴風雪のドライバーなどの行動判断を支援するために、インターネットサイト「吹雪の視界情報」において、現況及び24時間先までの予測の視程情報の提供を開始しました。さらに、吹雪の発生が予想されるときに、注意を促すためのプッシュ型情報として「メール配信サービス」と、一般市民の協力によって吹雪情報を投稿、閲覧できる「吹雪の投稿情報」を開始しました。

その後のユーザアンケートで、「吹雪の視界情報」を利用して行動や予定の変更について尋ねたところ、「行動や予定を変更する」との回答が79%と多数を占めていました。このうち、「出発時刻を変更した」が60%、「外出や移動を取りやめた」が59%で、吹雪を回避する行動判断の支援に視界情報が有効に活用されていることが確認出来ました。

今回は、これらの取り組みが評価されて受賞にいたしました。

表彰式では平成30年6月29日に東京都のアルカディア市ヶ谷で開催され、研究担当として國分徹哉研究員

が出席しました。この受賞は道路利用者を始めとする、多くの方々のご指導、ご協力の賜物であります。今後もドライバー等の安全な行動を積極的に促すような情報提供を目指して研究を進めてまいります。

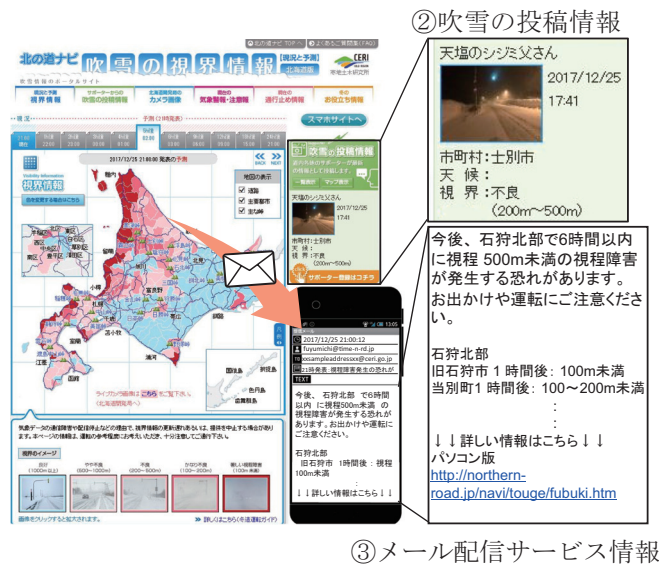


図-1 吹雪の視界情報等の概要



写真-1 授与された盾と賞状

(文責：雪氷チーム 國分 徹哉)